# 17［評論］「死んだらどうなるの？」

　「存在し、しかも存在しない」という状態は、仏教では「」と表現される。まえにも出てきたが、ここであらためて整理しておこう。この状態は、本来は知性ではえられないのだが、そう言ってしまっては［　　Ａ　　］。なんとか理解してもらえるように書いてみたい。

　要は、①どんな物体も粒子も現象も、あるいは宇宙全体のどんな存在も、何も、絶対的な普遍性をもたない、ということなのだが、これじゃあ余計にわからないだろうか。

　［　　１　　］ここに、コップ一杯のコカコーラがあったとしよう。

　人によって好き嫌いもあるだろうから、それを眺める気分はみな違うにしても、とりあえず同じヒトであれば、同じように黒みがかった液体とその泡が見えているだろう。むろん、それがぴったり同じだというａホショウはないのだが、まあｂ大雑把にいえば同じような液体が見えるはずである。

　［　　２　　］ここで他の生き物の知覚を想像してみよう。たとえば犬の視界はモノクロらしいが、ヒトよりもはるかに赤外線に敏感らしい。またはヒトよりも紫外線を感じる。コウモリは視覚は衰えているがその代わり、超音波の反射音を感じてｃタイショウの存在と自分との関係を知る。誰も、ヒトと犬と鳩とコウモリに感じられるコカコーラや世界が同じものとは思わないだろう。

　そうであるなら、ヒトに感じられるコカコーラの在り方を、そのものの実体だとするのは、ヒトのｄ傲慢でしかないだろう。〈Ⅰ〉

　むろんそこには、何もないわけじゃない。②しかし観察者に関係ない実体というのは、ないということだ。〈Ⅱ〉

　それなら同じヒト同士であれば、それなりに実体を認めていいのではないか、と思われるかもしれない。しかしコカコーラは刻々と変化している。〈Ⅲ〉泡が出るからわかりやすいが、このことは机やノートでも同じである。〈Ⅳ〉このことは、仏教では「縁起」と「無常」という言葉で表現される。［　　３　　］、モノが常に観測者やその他の条件との相互依存のなかに存在するというのが「縁起」、刻々と変化するから変わらぬ実体などない、というのが「無常」である。

　しかもこれは、いかなる粒子についても、また意識についても当てはまると仏教では考える。粒子であれ意識であれ、固定して概念化したものが「」だが、それらは実体ではないから、しつこく「」と申し上げているのである。〈Ⅴ〉

　③量子力学は、ようやくにしてこの認識に到達したといえるだろう。

　ボーアは、「原子、亜原子という物は、固有の特性は何ももっていない」と言う。つまり量子論を背景にして物体を見る場合には、常に測定しうる特性をそなえているものと見ることは許されない。簡単に言うと量子力学は物体という概念を根底から相対化し、すべてを「できごと」のｅ範疇に入れてしまったのである。

●語注

量子力学＝分子・原子・原子核・素粒子などの微視的物理系を支配する物理法則を中心とした理論体系。

問１　二重傍線部ａ〜ｅの漢字は読みを記し、カタカナは漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　空欄Ａに入る最も適当な慣用句を次から選べ。4点

ア　身が持たない　　　　イ　身に覚えがある

ウ　身の置き所がない　　エ　身から出たさびだ

オ　身ももない

〔　　　〕

問３　空欄１〜３に入る最も適当な語句を次から選べ。3点×3

ア　ただし　　イ　たとえ　　ウ　たとえば

エ　つまり　　オ　しかし

１〔　　　〕 ２〔　　　〕 ３〔　　　〕

問４　本文には次の一文が抜けている。それが入るのにふさわしい箇所を〈Ⅰ〉〜〈Ⅴ〉から選べ。5点

そうでなければあらゆるモノは古びることもないだろう。

〔　　　〕

問５　傍線部①となぜいえるのか。その理由として適当なものを次から二つ選べ。4点×2

ア　どんな存在も現象も常に変化しており、変わらぬ実体は存在しないから。

イ　宇宙に存在するすべての存在で、すこしも変化しないものはわずかだから。

ウ　どんな物体も現象も、観察者との関係によって変化する相対的なものだから。

エ　いつどこにおいても存在するという物質や現象は、ありえないから。

オ　刻々と変化する物質や現象を、人間は正確に把握することができないから。

〔　　　〕〔　　　〕

問６　傍線部②をわかりやすく具体的に述べている一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　〕

問７　傍線部③について、「量子力学」はどのような「認識」に到達したというのか。本文中の語句を用いて二〇字程度で説明せよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕という認識

【解答】

問１　ａ保証　ｂおおざっぱ　ｃ対象　ｄごうまん　ｅはんちゅう

問２　オ

問３　１＝ウ　２＝オ　３＝エ

問４　〈Ⅳ〉

問５　ア・ウ

問６　 誰も、ヒト

問７　物体は常に測定しうる特性や実体をもたない（という認識）（20字）

　　　物体という存在は固有の特性や実体を持たない（という認識）（21字）

　　　（傍線部の内容がなければ×）

■覚えておきたい語句

□2　知性……………………知的な働き、能力。

□4　普遍性…………………すべてのものに通ずる性質。〔反〕特殊性

□9　大雑把…………………おおよそ。だいたい。

□10　モノクロ………………単色画。モノクローム。〔反〕カラー

□14　傲慢……………………おごり高ぶり、人を見下すこと。

□16　実体……………………そのものの本当の姿。〔類〕正体

□28　範疇……………………同種類のものの所属する部類。

〔要　約〕

《段落の相互関係をつかむ》

［1］・［2］　…文章全体で述べたいこと。

［3］〜［6］　…具体例での説明。

［7］〜［11］ …まとめ。

《具体例の段落は省き、問題提示とまとめの段落をつなぐ》

　　　　↓

仏教における「空」とは、どんな存在も、絶対的な普遍性をもたないことをいう。それは、すべての存在は、観測者との相互依存のなかに存在し、また、刻々と変化しているからである。量子力学でも同じ認識に到達した。（100字）

〈筆者＆出典〉玄侑宗久（げんゆう・そうきゅう）一九五六年（昭和31）福島県生まれ。小説家、僧侶。慶応義塾大学中国文学科卒業。『中陰の花』で芥川賞を受賞。ほかに、『アブラクサスの祭』『』『テルちゃん』などがある。本文は、『死んだらどうなるの？』（ちくまプリマー新書、二〇〇五年）より。

【読みのセオリー】

★脱文挿入の解き方

　本文から抜き出した文の、もとの位置を指摘する問題。

　①抜き出された文には、前後の文と確かなつながりを示す言葉が必ずあるはず。まず、その「つながりを示す言葉」を手がかりに、どの辺りに入るか、おおよその見当をつける。

　②〈指示語・接続語・話題語〉が、多くの場合そのつながりを示す。

■読みのセオリー［実践］脱文補入の解き方

問４　〈指示語・接続語・話題語〉に注目しよう。次のａ〜ｃはどれにあたるだろうか。

　ａそうでなければｂあらゆるモノはｃ古びることもないだろう。

ａは［１　　　　　　］

ｂは［２　　　　　　］

ｃは［３　　　　　　］

　次に、ｂ「あらゆるモノ」、ｃ「古びる」に関係ありそうな語句を本文中から抜き出そう。

ｂ「あらゆるモノ」

　　［４　　　　　　］

ｃ「古びる」

　　［５　　　　　　］

　最後に、ａ「そう」にふさわしい語句が直前にあるか調べ、答えを確定しよう。

〔解答〕　１指示語　２話題語　３話題語　４机やノート　５刻々と変化している

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問５　傍線部①の内容を端的に述べている語句を本文から五字以内で抜き出せ。（４字）

［答］　色即是空

＊新問

問８　６段落「ヒトに感じられるコカコーラのあり方を、そのものの実体だとするのは、ヒトの傲慢でしかないだろう」とあるが、そういえる理由を、本文の語句を用いて五○字以内で説明しなさい。

［答］　ヒトとは違う知覚を持つ生き物がとらえたコカコーラとヒトが感じられるコカコーラのあり方は違うから。（48字）

＊新問

問９　26行目「固有の特性は何ももっていない」とあるが、これとほぼ同じ内容を述べている部分を傍線部③より前の部分から10字で抜き出せ。

［答］　変わらぬ実体などない（10字）